

5 市民活動の支援

現状と課題

高度化・多様化する市民のニーズや、様々な地域課題に対し、市民意識の向上を図りながら、行政と市民の適正な役割分担に基づいた参画と協働によるまちづくりを進めていく必要があります。

本市では、震災以前からごみ減量運動や地域の清掃活動を行っているほか、社会福祉協議会のボランティアセンターに多数のボランティアグループや個人の活動希望者が登録されています。

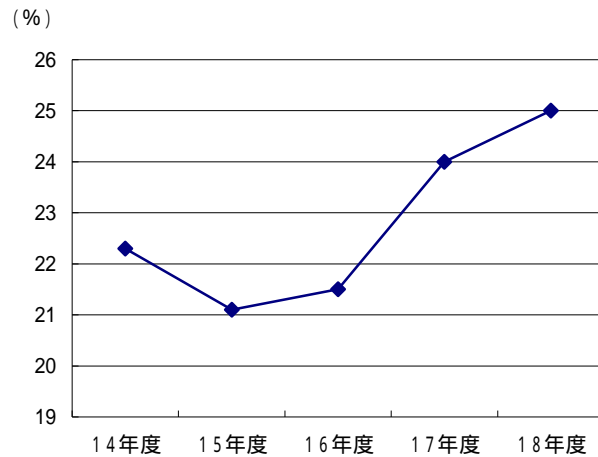
また、震災時には、住民の助け合い、支え合うコミュニティ活動が展開され、震災以降も、まちづくりの様々な分野でボランティア活動が活発になっており、NPO法人数は、県下で神戸市に次いで2番目の法人数となっています。

少子高齢化や核家族化の進行、市民意識の多様化などにより、市民生活の基盤である地域社会への共同体としての帰属意識や、人と人とのつながりが希薄化しつつあり、コミュニティの重要性が改めて問われています。

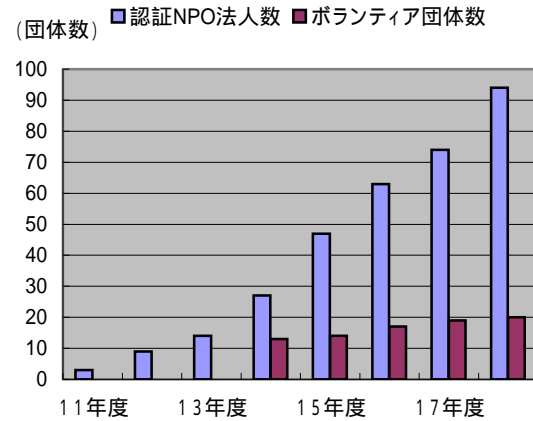
若い世代の活動を支援するため、市民交流センターや西宮学生ボランティア交流センター等の機能を活かし、人材の育成やコーディネート機能の向上を図っていく必要があります。また、定年退職を迎える人々については、順次、地域社会に戻ることであり、これまでの豊富な経験や多様な能力を地域で発揮していただくことが求められています。

地域団体やボランティア、NPO法人等の活動拠点となる市民交流センターや地区市民館、共同利用施設等を活用して、人々が交流を図れるよう取り組む必要があります。

地区市民館利用率の推移
(利用室数 / 利用可能室数)



市内のNPO法人認証団体数と
市民交流センターに登録している
ボランティア団体数の累計



基本方針

行政と地域のこれまでの関係を協働の視点から再構築して、自主的な市民活動が持続・発展的に展開されるよう、支援体制づくりに努めます。また、地区市民館などのコミュニティ活動の拠点となる既存施設の有効活用にも努めます。

主要な施策展開

(1) コミュニティ意識の高揚

西宮コミュニティ協会と連携し、地域情報誌「宮っ子」やホームページ、コミュニティ活動等の情報提供等を行い、地域のコミュニティ意識の高揚を図ります。

(2) コミュニティ活動の支援

市民自らが行うコミュニティ活動を支援し、地域で共に助け合い、支え合う地域コミュニティづくりを推進します。また、コミュニティの構築のため、地域活動への参加の呼びかけ、組織運営の活発化への支援、各種団体の支援を推進します。また、コミュニティ活動の拠点となる地区市民館、共同利用施設等が市民のふれあい・交流の拠点として安心・安全に利用できるよう、防災面にも配慮し、施設の維持管理を行います。

(3) ボランティア・NPO等活動の推進

市民生活のあらゆる分野で主体的な活動が行えるよう、市民交流センターや西宮学生ボランティア交流センターなどにおいて、情報提供機能の充実や活動の支援を行うなど、拠点機能の強化を図るとともに、NPO団体等への支援を推進します。

(4) 人材の育成

地域社会における諸活動の活性化、交流の促進などを図るため、活動の中心となるリーダーの育成や発掘に努めます。

(5) コーディネート機能の構築

ボランティア活動希望者と支援を受けたい方とのコーディネート機能の構築を図ります。

市民一人ひとりの活動

地域コミュニティ等への関心を高め、市民活動へ参画する。

まちづくり指標

< 指標の考え方 >

市民活動を活発にし、地域コミュニティの活性化が図られるように、活動の拠点として市民交流センターや地区市民館などの利用率向上を目指します。

重点	指標名	単位	現状値 (H18)	目標値 (H30)	指標方向
	市民交流センターの利用率	%	38.4	60.0	▲
		式	利用室数 / 利用可能室数		
H30目標値の設定理由 登録団体の増加と立地の利点を活かし、60%を目標に設定					
	地区市民館の利用率	%	23.3	50.0	▲
		式	利用室数 / 利用可能室数		
H30目標値の設定理由 指定管理者制度の活用で利用率の倍増を目標に設定					
	共同利用施設の利用率	%	27.7	50.0	▲
		式	利用室数 / 利用可能室数 (学習室・育児室除く)		
H30目標値の設定理由 指定管理者制度の活用で利用率の増加を目標に設定					